

# 溶射皮膜管理の手法

## [5] ブラストエロージョン試験法

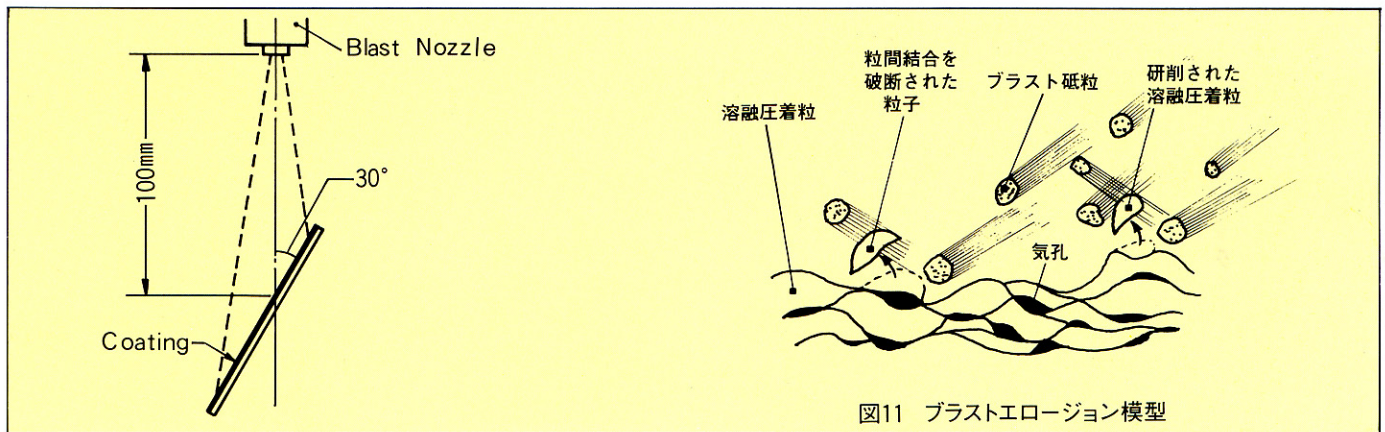


図11 ブラストエロージョン模型

ブラストエロージョン試験法について

(1)測定仕様

- (i) ノズル内径 6.0mm φ
- (ii) ノズルー試験片距離 100mm
- (iii) 圧縮空気圧力 5kg/cm<sup>2</sup> (吸引型)
- (iv) 試験片 50×60×3.2t (mm)  
母材材質 SS-41

(v) ブラスト材 昭和電工 A-41 モランダム

Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	SiO <sub>2</sub>	Fe <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	TiO <sub>3</sub>	じん性	ヌーブ 硬さ	嵩比重	真比重
96.03	0.67	0.15	2.70	regular	2070	中	3.97

(vi) 粒度分布 -35, +60メッシュ

メッシュ	42	48	60	70	pan	計
35						
1%	8	44	40	6	1	100

(vii) 噴射時間 10秒

(2)測定方法

下記の要領によります。

試験片 No.	A	B	A-B
	試験前重量(g)	試験後重量(g)	減少重量(g)
1			
2			

(単位g/10sec/30cm<sup>2</sup>)

2枚の試験片 よりのデータ	
$\bar{x}$	
$\sigma_{n-1}$	
$\frac{\sigma_{n-1}}{\bar{x}} \times 100$	%

(3)問題点

特に気孔率の異なる異種材料間の比較に皮膜重量減少量を用いることは正しくなく、皮膜体積減少量を用いるべきです。このためには皮膜嵩比重の測定が必要となります。